(C)河北新報社

三陸道 全線開通

仙台―八戸 総延長359キロ

東日本大震災の復興道路として国が整備を進めてきた三陸沿岸道が18日、全線開通した。未開通区間だった岩手県の普代―久慈インターチェンジ（IC）間25キロの通行が可能となった。震災10年の年に、宮城、岩手、青森3県の太平洋沿岸を貫く総延長359キロの大動脈が完成した。

（24面に関連記事）

全線開通で仙台市と八戸市が直結。震災前は8時間35分かかった所要時間が5時間13分に短縮される。宮城県内の途中から八戸までは無料で通行できる。三陸一帯の移動が便利になり、産業活性化や観光振興に期待が高まる。

三陸道は三陸縦貫自動車道（仙台市―宮古市）、三陸北縦貫道路（宮古市―久慈市）、八戸・久慈自動車道（久慈市―八戸市）の総称。震災前は36%しか開通していなかった。

国は震災後、完成期間を「おおむね10年」と掲げ、縦軸の三陸道を復興道路、横軸を復興支援道路と位置付けて整備を加速させた。総延長は570キロで総事業費は2兆2000億円。

久慈市の体育館であった開通式典には、達増拓也岩手県知事や西銘恒三郎復興相、沿岸部の市町村長ら約90人が出席。達増知事は「高規格道路ネットワークで沿岸と内陸が一つになった岩手県が全国と海外とつながる。歴史的な出来事だ」と強調した。

出席者は体育館内でテープカットとくす玉割りを行った後、久慈IC付近まで移動。車に乗り込み、久慈宇部ICまでの8キロで通り初めをした。式典終了後、午後3時に一般車両の通行が始まった。

三陸道は津波浸水区域を回避したり、高い場所を通ったりするよう設計された。津波の際、周辺住民が道路に上がることができるように避難階段も設置した。

2020年度中の全線開通を目指していたが、普代―野田IC間の崩れやすい地盤でのトンネル工事や、野田―久慈IC間ののり面亀裂の対応などで遅れた。

全線開通した三陸道の下安家大橋（手前）。海側の鉄橋は三陸鉄道リアス線＝18日午後3時10分ごろ、岩手県野田村